

税金に込められたメッセージ

西台中学校 9 年

山 内 凜 音

小学校低学年の頃、机をハサミで削っている子がいました。もちろん、先生に見つかり「みんなですものなのだから、傷つけてはいけません」と怒られていました。しかし、税金がどれほどありがたいものなのか知らなかった私は「一人ひとり自分専用の机と椅子を買えば、傷つけても怒られなくて済むのに」と子供ながらに思っていたのです。もし、そのような世界になってしまったら、私達の生活はどのように変化するのでしょうか。

私達中学生に使われている税金は、年間で一人当たり約九七万九〇〇〇円だそうです。私達が順調に学校生活を送れるように、学校の校舎や体育館、教室の机、授業で使用するパソコンなどにも税金が使われています。そのすべてを個人で負担することになればどうでしょうか。学校に通えない子供が続出してしまうと思います。だからこそ、税金が私達の生活の土台となっているということが理解できると思います。

私達は税金を「もらい、使う」側ですが、税金を「納める」側はどのような気持ちなのでしょうか。

人々は皆「税を負担する」と言います。私はこの表現に疑問を抱きました。「国をより良く、国民がより生活しやすくするために税金を納めているのに、なぜこのようにネガティブな言い方をするのだろう」私は家族に聞いてみました。

税金を納めることは、決して楽なことではないそうです。やはり、税金を義務として、納めなければならないものとして捉えている人が多いため、負担という表現は間違っていない。母はそう言いました。私は、税金というものは、人々にとってあまり良くないものなのだと思います。しかし「私達が何を言おうと、国の制度を変えられるわけではない。実際に、学校や病院で助かっていることもある。だから、今はただ、ありがたくいただいておきなさい」私は、この母の言葉に、税金の重みを実感させられました。

私はこれらの知識を踏まえてもう一度、公共物を傷つけてはいけない理由について考えてみました。それは、国民一人ひとりが国のために、私達のために納めてくれている税金をありがたく受け取らなければならない、未来へ繋いでいかなければならないからだと思います。公共物とは、私達の毎日を豊かにしてくれる国民の皆さんからの贈り物なのです。

皆さんは税金に込められたメッセージを読み取ることはできていますか。納められた税金は巡り巡って私達の元へ届き、私達の未来を明るく照らしてくれています。私達はまだ税金を「もらう」側で、納める責任は生じていません。しかし、今度は私達がメッセージを送る番です。今まで繋がれてきたメッセージを次世第へ繋げていく。税金とは、人と人を繋げ、未来へ運んでくれる素晴らしいものです。